

2 指導案 1

「幼いころを振り返ろう」(1/12)

[目標]

- ・自分の誕生や成長の様子を振り返り、幼児の成長に関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)
- ・自分が多くの人に支えられて成長してきたことに気付くことができる。(関心・意欲・態度)

| 学習内容 | 学習活動 | 教師の支援 | 評価と方法 |
|------------|---|---|---|
| 導入 10分 | 1 幼少時の写真を見て、「わたしはだれでしょう」クイズをする。 2 本時の学習目標を知る。 自分が生まれたときや幼いころの様子を振り返ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・写真と本人を見比べさせて、自分たちの成長に興味をもたせる。 ・写真を見た簡単な感想を発表させ、ゲストティーチャーと生徒の交流を図ることで、和む雰囲気をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・クイズを通して、幼児の成長に興味をもつことができる。(観察) |
| 展開 30分 | 3 自分が生まれたときのことについて調べたことや思ったことを発表する。 4 助産師から出産の様子について説明を聞く。 5 妊婦や母親から妊娠や育児の喜びや苦勞を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に調べてきた内容を確認し、家庭環境に配慮しながら、意図的に指名する。 ・生徒が調べてきた内容を専門的な立場から説明してもらい、考えを深めさせる。 ・助産師としての喜びについて話してもらい、自分は多くの人に支えられて誕生したことに気付かせる。 ・胎児の心音を聞かせることで、生命誕生を身近に感じさせる。 ・母親としての立場だけでなく、家族の様子も話してもらい、様々な人に支えられていることに気付かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・助産師や母親の話を聞き、生命の誕生や幼児の成長には多くの人の支えが必要であることに気付くことができたか。(ワークシート) |
| まとめ 10分 | 6 実習を通して気付いたこと、分かったことをまとめ、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の誕生や家族とのかかわりについて気付いたことを発表させ、次時の幼児の成長の授業へつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標に沿って、気付いたことや分かったことをまとめることができたか。(ワークシート) |

[評価]

- ・助産師や母親の話を聞き、幼児の成長について関心をもつことができたか。(ワークシート)
- ・助産師や母親の話を聞き、自分の誕生や成長は、家族やその他の人々に支えられてきたことを改めて気付くことができたか。(ワークシート)

[参考]

〈生徒の発表に対する助産師の話〉

- ・あまり泣かないおとなしい子供だったらいい。自分でも信じられない。(生徒発表)
→よく泣く子は大変だと思われがちだが、泣かないおとなしい子は親にとっては心配である。子供は泣くことで様々な欲求を伝える。その泣き声を聞いて親は何をすればいいか判断する。泣かないということは、子供に何をしてもやればよいか分からず、特に初めて子育てをする親にとっては心配である。
- ・4人目なので、簡単に生まれたそう。(生徒発表)
→3人の子供を育てながら、妊娠出産することは決して簡単なことではない。一人目の子を産むのとは違った苦勞がある。また、出産は一人一人状況が異なるので、例え4人目でも無事に生まれてくるまでは心配だったと思う。

〈中学生に対する助産師の願い〉

中学生は育ててもらっただけの立場ではなく、自分たちは確実に大人になっていること、そして、母となり、父となり得る存在に成長していることを自覚してほしい。命の誕生は決して他人事ではない。一人一人がいずれはかかわって新しい命をはぐくむ時期が来ることを知ってほしい。そして、その際には、周りの人々の協力があつて、命が生まれてくるのだということをしっかりと考えてほしい。